

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は「〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 応用獣医学連合講座 浅井鉄夫」までお願いします。

〔編集後記〕

「SPFとはSpecific（特定の）Pathogen（病原体）Free（無い）の略で、あらかじめ指定された病原体を持っていないという意味です。わが国でSPF養豚が開始されてから、半世紀が経ちました。」これは、日本SPF豚協会のHPの「SPF豚とは」の冒頭です。今から50年以上も前に国内の養豚産業における感染症の問題に立ち向かい、克服した先人に敬意を表します。また、協会の協

力を得て寄稿いただいている「年次報告」は継続して会員の方々のご苦勞を知るうえで、重要な情報となっています。安全な豚を安定して生産する技術は、衛生レベルの高い素豚と徹底した衛生管理に基づく、各農場の様々なノウハウによって実現しています。本号では、持続可能な開発目標（SDGs）についてご寄稿いただきました。現在、国際社会を含め国内でも、大きな目標を掲げ、産官学が協力し合いながら、目標達成に向けて走り出しています。今日まで、当たり前のごとくに享受してきたすべてのことを見つめなおす絶好の機会です。

豚熱（CSF、豚コレラ）はイノシシが感染拡大に関与したことにより、これまで以上に衛生管理が重要となりました。初発地域の岐阜県内では、イノシシのCSF陽性個体が8月から散見されるようになり、養豚農家や関係者の間で緊張感が高まっています。野生動物対策の方法と防除可能な野生動物の種類、豚のワクチン免疫の状況などを再確認しながら、発生防止に取り組んでいます。

「All about SWINE」

第59号

2021年9月発行 定価1,500円

発行者 小林 秀 樹

編集者 浅 井 鉄 夫

発行所 日本 SPF 豚 研 究 会

事務局 〒187-0022

東京都小平市上水本町 6-20-1

国立研究開発法人 農研機構

動物衛生研究部門 内

Tel : 042(321)1491